

平成 28 年度 沢地小学校区 第 1 回地域コミュニティ連絡会のまとめ

作成：三島市役所地域安全課きずなづくり推進室（TEL：055-983-2708）

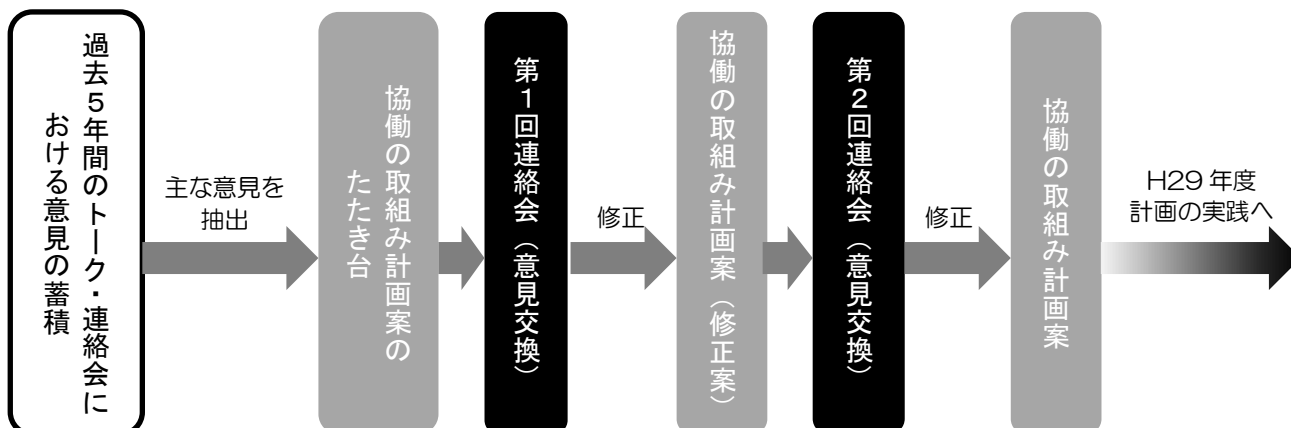
6月10日（金）に開催された「沢地小学校区第1回地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。まとめができましたので、送付いたします。

※市のホームページにも掲載しています。

■開催概要■

日時	平成 28 年 6 月 10 日（金） 19:00～20:40		
会場	市民体育館		
参加団体 (25名)	沢地町内会 千枚原町内会 光ヶ丘1丁目町内会 光ヶ丘1丁目防災会 光ヶ丘3丁目町内会 富士見台自治会 富士見台自主防災会 交通安全母の会	光ヶ丘保育園 沢地幼稚園 沢地幼稚園 PTA 沢地小学校 沢地小学校 PTA 三島北中学校 三島北中学校 PTA スクールガード	沢地子ども会 光ヶ丘1丁目子ども会 沢地小学校支援地域本部 北上地区地域包括支援センター スポーツ推進員 体育振興会 防犯サポーター 保護司会

■今年度の連絡会の流れ（予定）■



地域の情報交換のまとめ

●連絡会の中で、地域の皆さんに知ってほしいことや協力を仰ぎたいことなどを共有しました。

～各団体より校区の皆さんへ、情報提供&ご協力をお願い～

- ◆沢地町内会：沢地公民館の建て替え。工事期間は平成28年7月下旬～12月末を予定。
- ◆沢地幼稚園：6/7(火)保護者・地域の方のご協力のもと、園庭の芝植えが完了。
芝生の管理について知識のある方の協力をお願いしたい。
- ◆スクールガード：結成14年目、現在約20名で年間を通して登下校のパトロールを実施。
協力者を求めているが、なかなか増員につながらない状況にある。
- ◆沢地小PTA：昨年、「粋なおやじの会」を結成。
今年度は「座禅会」「学校に泊まろう」「かえるキャラバン」「どんど焼き」を計画中。人手が必要なので、地域の方にもぜひ参加してほしい。
- ◆千枚原町内会：7/30(土)に「遺跡祭り」を開催し、子どもおどり、花火大会等を実施予定。
近年、子どもの参加が増加している。より多くの方にご参加いただきたい。

意見交換のまとめ

- 第1回連絡会では、2つのグループに分かれて計画案のたたき台に関する意見交換をしました。
- この結果をもとに協働の取組み計画案を修正し、第2回連絡会で皆さんに再びご意見をいただく予定です。

こんな小学校区にしたい

【Aグループ】

● あいさつ・声かけ

- ・みんな知り合い、みんなあいさつ
- ・大人も子どももあいさつし合える町
- ・気軽に声を掛けられる校区
- ・誰でもあいさつする町（あいさつは防犯になる）

● みんなで支え合う

- ・皆で支え合う見守りのある町
- ・みんなで支え合うまち
- ・子どもとお年寄りにあたたかい
- ・みんなで支え合う優しい学区
- ・お互いに「しぐさ」「表情」「会話」「行動」から気づき、関わり合える地域の人たち

● 子ども

- ・安心して暮らせる
- ・子どもの成長をみんなで喜び合える
- ・子どもの顔、笑い声の見える町

- ・子どもが元気に遊べる町
- ・いじめのない学校

【Bグループ】

● あいさつ・声かけ

- ・あいさつのできる沢地小学校区

● みんなで支え合う

- ・子ども、高齢者、若い世代が支え合う沢地

● 笑顔・笑い顔

- ・大人も子どもも笑顔あふれる沢地小学校区
- ・自然と笑い声に包まれた沢地小学校区

● その他

- ・田んぼ、ホタル、蛙の声など良い所。心も豊かな学校に。
- ・のびのび暮らせる沢地小学校区

お困りごと・現在の状況

	A グループ	B グループ
担い手不足	<ul style="list-style-type: none"> 各組織の役員が単年度で交代すると、継続的な活動とならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 賛成してくれる人はたくさんいるが、実践する人は少ない。 人不足。 高齢化。 実態を把握することが、できていない。
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災の活動を知らない住人が多い。 情報が入ってこない。伝わらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 最近、総合防災訓練に中高生が参加するようになったが、参加証明書発行のためだけ。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援地域本部では、放課後に宿題を見てあげる学習支援(週 2 回)、学校の環境整備などを実施。 ほっとカフェを実施(月 1 回)。30~40 人参加、子どもから高齢者まで誰でも参加可能。(富士ビレッジ) 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館が自由に使えない。(一部の町内会)

取組みたいこと

団体間の連携を強化し、災害に備える		
	A グループ	B グループ
全体的話し合い & 確認	<ul style="list-style-type: none"> 災害に備えるためには、<u>まず何が 1 番大切なのか</u> (特に沢地地区に関して)、<u>皆さんと話し合い、確認</u>をしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>校区全体の防災力を高める</u>。
黄色いハンカチ	<ul style="list-style-type: none"> 黄色いハンカチ訓練とあるが、ハンカチは各家庭に用意されているのか? 周知されているのか? 黄色いハンカチの<u>具体的な運用法</u>を決める(独居老人世帯)。 	<ul style="list-style-type: none"> 「黄色いハンカチで状況を知らせる訓練」は、計画案に載せておく。 独居高齢者は、黄色いハンカチで<u>安否確認</u>。 町内会ごとに考え方が異なる。
小学生の訓練参加	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練で<u>小学 5・6 年生に積極的に参加</u>してもらい、防災力を高めてもらう。 小学生高学年で防災訓練に積極的に参加すると、中学生になっても参加しやすい。 	
回覧で情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <u>回覧</u>等で、学校・幼稚園の情報を知ることができるので、引き続きお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園で既にやっている 2 か月に一度お便りを<u>回覧</u>することは継続する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 小学生の引き取り訓練と同じ日に、保育園も 2 次避難場所である沢地小で<u>同時に引き取り訓練</u>を行う。保育園の事情的に全員参加は難しいかもしれないが。 	<ul style="list-style-type: none"> 広域避難所まで避難すると大変だが、1 次避難地までは全員来るようにする。

地域で子どもたちを支えよう		
	A グループ	B グループ
スクールガードの募集継続		<ul style="list-style-type: none"> ・募集は既にやっている。今後も続けるしかない。 ・辛抱強く掘り起こす。 ・町内会や学校支援地域本部を通じて情報を提供し、<u>重要性を周知</u>するとともに募集する。 ・声掛けの時は腕章をつける。 ・各町内会のスクールガードの<u>人数を開示して、競い合ってもらおう。</u> ・<u>氏名も開示</u>する。 ・<u>PTA に呼びかけてもらおう。</u>
気軽にできる見守り体制	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>時間が空いた時に</u>、登下校の見守りをする体制を!! ・<u>在宅</u>でもできるサポートを住民に依頼する。具体化して少しでも進めていく。 ・<u>家の周辺</u>だけでもよい。スクールガード(学校全体)という組織となると負担。 ・組織にこだわらず、<u>気軽に見守ってもらえる仕組みづくり</u>が大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーターが足りない場合、<u>低学年の下校時間帯を重点的に</u>見守る。 ・<u>散歩コースを設定</u>し、地域住民に歩いてもらう。 ・下校時間帯に<u>自宅の前に立つ</u>。在宅でもできる。
新たな取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域の教育力</u>を子どもや生徒の成長に生かせる取組みを！人の確保。 ・沢地小学校学習支援に読み聞かせを追加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>幼稚園 PTA と小学校おやじの会との連携</u>も行事によっては勧められるのではないか？（例：あまごの放流） ・カメラ設置も案の 1 つだが、資金的に難しい。

高齢者が安心して暮らせる環境づくり		
	A グループ	B グループ
活動の周知 & 働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・月 1 回オープンしている「ほっとカフェ」を<u>地域内に周知</u>したい。どう広めるか？ ・地域の活動をいかに広く知らせるか？ ・<u>情報交換が必要</u>。サロンのような気軽に集まれる場を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内行事には、楽しみから入る。 ・人手不足・高齢化の状況を PTA に訴えるべき。 ・PTA が高齢者への働きかけのきっかけを作る。 ・高齢者向けのサロンを開催しても、来るまでが（移動手段が）大変。
包括支援センターと協力	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所やサロンを作りたい人や自治会があれば、立ち上げの協力をします。 ・講座の内容によるが、自治会集会場へ的高齢者向け出前講座を行います。（包括支援センター） 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の楽しみは、買い物と病院なので、これらを安易に楽しめるよう、コミュニティバスの運営をしてほしい。バス車内が高齢者の交流につながる。

意見交換の結果を踏まえた「きずながつくる協働の取組み計画案」の修正の主なポイント

◆こんな小学校区にしたい

- ・「あいさつ」「支え合う」などの言葉を用いる。
- ・「笑い声」「笑顔」等をイメージしたキャッチフレーズにする。

◆お困りごと・現在の状況

- ・自主防災の活動を知らない人が多い旨を追記する。

◆取組みたいこと

<団体間の連携を強化し、災害に備える>

- ・小学校 5～6 年生の参加を促すことを追記する。

<地域で子どもたちを支えよう>

- ・地域住民にとってわかりにくい表現なので、「サポーター」に関する記述は削除する。
- ・組織にこだわらず気軽に見守ってもらえる仕組みづくりのことを追記する。
- ・各町内会のスクールガードの人数を開示して、各町内会のスクールガードの人数を競い合ってもらうことを追記する。

<高齢者が安心して暮らせる環境づくり>

- ・サロンのような気軽に集まれる場を作ることについて、「検討」を外す。
- ・地域包括支援センターと協力する旨を明記する。